

保証書

この製品は、厳密なる品質管理及び検査を経てお届けしたものです。
 お客様の正常なご使用状態で、万一故障した場合には、お買い上げ
 の販売店に必ず本保証書を提示の上、修理をご依頼ください。
 裏面の保証規定により、無料で修理いたします。
 ※印欄の記入のない場合には、有効とはなりませんから、必ず記入
 の有無をご確認ください。

商品名	RT619DX	
保証期間	※ お買い上げ年月日	1 年間
	年 月 日から	
※ お客様	〒 TEL.	様
	ご住所 氏名	
※ 販売店	TEL.	
	店名住所	

本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。



株式会社 **マルハマ**

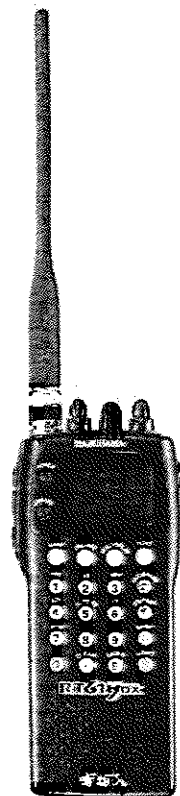
神奈川県横浜市南区白妙町4-43-4

TEL 045(251)2606

MARUHAMA
 0.5~1300MHz
 ワイドバンドレシーバー

ALL-BAND
 SCANNING RECEIVER
RT619DX

取扱説明書



RT-619DXをお買い上げいた
 だき誠にありがとうございます。

この取扱説明書は本機を正しく
 お使いいただくためのガイドブッ
 クです。ご使用になる前に本書を
 よくお読みになり、内容を十分理
 解された上でご使用くださるよう
 お願いします。

また、本書はいつもお手元にお
 いて都度ご参照ください。

目次




	ページ
1. 安全についてのごお願いとご注意	1
2. 製品の構成	6
3. 製品の有する機能	7
4. ご使用になる前に	8
1. 電源について	8
2. 付属品の取付け方法	8
3. イヤホンで聴く場合	8
5. 操作方法 〈ステップ1〉 〈簡単受信をしてみましょう〉	9
1. 名称とはたらき	10
2. 受信方法	11
6. 操作方法 〈ステップ2〉 〈マニュアル操作にチャレンジしましょう〉	14
1. 各部の名称とはたらき	15
2. メモリーバンクの受信エリア	19
3. 2バンド受信	21
4. チャンネルモニター	23
5. ダイレクト受信	24
6. 受信モードの設定	25
7. パスメモリーの登録と消去	27
8. 秘話通信(スクランブル)の解読	28
9. チャンネルリバース	29
10. パーソナル無線のデータ解読	31
11. アンテナの使用法	32
7. 操作方法 〈ステップ3〉 〈メモリー登録をしましょう〉	33
1. メモリーの構成と登録方法	34
2. ダイレクトメモリーの登録と受信方法	35
3. グループ別チャンネルメモリーの登録と受信方法	37
4. エリアメモリーの登録と受信方法	39
5. チャンネルステップの設定	41
6. ディレイ時間の設定	42
7. メモリーの消去	42
8. プログラム受信	44
9. プライオリティ受信	46
1. プライオリティチャンネルのメモリー登録	46
2. プライオリティチャンネルの受信	47
10. 盗聴電波の受信	48
1. 盗聴電波の受信方法	48
2. 盗聴器の場所の特定	48
11. ファンクションモードでの機能	49
1. 操作方法	49
2. 機能説明	50
12. 故障とお考えになる前に	51
13. 主な仕様	52

1. 安全についてのごお願いとご注意

安全についてのごお願い

本機を安全にご使用いただくには正しい操作と安全に関する注意事項をお守りいただくことが不可欠です。本書では、最初に、もしお守りいただかないと重大な人身事故につながるおそれのある事項を“警告”として掲げています。次いで、もしお守りいただかないと使用者がけがをしたり、製品の損傷、故障につながるおそれのある事項を“注意”として掲げています。また、“法的規制”、“機能上の制約”についても説明しています。

本書では“警告”と“注意”に関し、マークを付与して注意を喚起しています。それらの使用区分は次のとおりです。なお、各マークの外枠の中の小マークは具体的な内容を示します。

-  : 警告、注意(特定しない“警告”と“注意”を示します。)
-  : 禁止(“警告”と“注意”の内、してはいけないことを示します。)
-  : 強制(“警告”と“注意”の内、しなければならないことを示します。)

本機をご使用になる前にこれらの内容をよくお読みになり、十分理解の上操作して下さい。“警告”や“注意”は本機を本書に規定する目的で使用する場合のみを想定しています。本書に書かれていない方法での使用は絶対に避けてください。規定外の方法でご使用になったことによって発生した事故などについて、弊社は一切の責任を負いません。





なお、本書を紛失、汚損された場合は切手400円分を同封の上弊社宛ご請求ください。

安全についてのご注意


⚠ 警告

(人身の安全のためにお守りいただくこと)




使用場所、使用環境

-  ■ 自動車、自転車など乗り物を運転中に操作しないでください。乗り物の運転中に本機を操作することは、交通事故の原因になりますので絶対に避けてください。
-  ■ 人混みの中では使用しないでください。アンテナが目などにあたり、けがの原因になります。
-  ■ 本機に水がかかる可能性のある場所で使用しないでください。風呂場では使用しないでください。また、雨天時、海岸、水辺での使用時には水がかからないよう十分注意してください。水がかかった場合はすぐに拭き取ってください。また、万一内部に水が入った場合は直ちに本機の電源を切り、ACアダプターを使用中の場合にはコンセントから抜いてください。そのまま使用しますと、火災や感電の原因になります。
-  ■ 雷が鳴り始めたらアンテナには触れないでください。雷鳴時にアンテナに触れますと感電の原因になります。



分解、改造の禁止

-  ■ キャビネットは絶対にあけないでください。本機は精密部品を多数搭載しています。分解や改造を加えますと故障が起き、また感電の原因になります。

電源、電源コードの取扱い

-  ■ 定格以外の電圧で使用しないでください。(ACアダプター使用時) 定格以外の電圧を加えますと異常に発熱し、火災や感電など重大事故の原因になります。
-  ■ 外部電源を使用する場合は必ず付属の弊社純正品(ACアダプターまたはシガープラグ)を使用してください。他社製アダプターを使用しますと故障の原因になるのみならず、異常な発熱などが生じ火災の原因になります。また、本機同様、ACアダプター、シガープラグの分解や改造は避けてください。
-  ■ 電源コードを傷つけたり、傷んだ電源コードを使用しないでください。電源コードが傷んだ場合は販売店から新品を購入してください。そのまま使用しますと火災や感電の原因になります。




異状検出時の対処

-  ■ 発熱、発臭、発煙を検出した場合には直ちに使用を中止してください。
-  これらの異状を検出した場合には直ちに本機の電源を切り、ACアダプターを使用中の場合はコンセントから抜き使用を中止してください。そのまま使用しますと、火災や感電の原因になります。修理は販売店に依頼してください。お客様ご自身の修理は絶対に避けてください。




△ 注意

(けがや本機の故障を避けるためにお守りいただくこと)


使用環境、取扱い

-  ■ 衝撃や振動を加えないでください。
衝撃や振動を加えますと、精密部品が壊れ故障の原因になります。
-  ■ テレビ、ラジオなどの電子機器から離れた場所でお使いください。
強い電磁波を発する電子機器の近くでは正常に動作しない可能性があります。
-  ■ 規定範囲内の温度環境下でお使いください。
-10℃～+60℃が許容範囲です。この範囲外で使用しますと故障の原因になります。

電池の取扱い

-  ■ 電池を本機に挿入する場合は極性(プラス、マイナスの方向)に注意し指示どおりに正しく挿入してください。
間違えて挿入しますと、乾電池の破裂、液漏れにより、けがをしたり故障の原因になります。
-  ■ 新旧の電池を混ぜて使用しないでください。
電池の劣化を早めるとともに破裂、液漏れにより、けがをしたり故障の原因になります。
-  ■ 使用済みの電池を普通のゴミと一緒に捨てないでください。
使用済みの電池は環境保全のため、地域で定められている“電池回収日”に所定の箱に入れるか、あるいは電器店の“電池回収箱”などへ入れてください。

保守

-  ■ 長時間ご使用にならない時はACアダプターをコンセントから抜いてください。
そのまま放置しますと故障の原因になります。




- ケースが汚れた場合は柔らかい布またはティッシュペーパーで拭き取ってください。
シンナー、ベンジン、化学雑巾などを使用しますと、本機が変形するおそれがあります。また、お手入れの際は必ず本機の電源を切り、ACアダプターはコンセントから抜いてください。

法的規制



- 電波法を遵守してください。
電波法第五十九条により、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受し、その存在もしくは内容を第三者に漏らしたり、窃用することが禁止されています。厳重に注意してください。

機能上の制約

- 音声、雑音(ザー音)以外の信号音を受信することがあります。
本機はアナログ通信を対象としており、デジタル通信、制御チャンネル通信、音声反転方式以外の秘話方式を使用した通信内容を受信することはできません。その場合、雑音(ザー音)以外の信号音を受信します。
- 使用場所により受信できない場合があります。
電波の遮断された建物の中、電波の届かない山中、強い電波が発射されている放送局の近辺などでは受信できない場合があります。
- 内部干渉により指定帯域外の電波を受信することがあります。
指定した受信バンドとは違う、他のバンドのチャンネルを、受信することがあります。例えば、携帯電話の移動局のバンドをサーチ中に、基地局側のチャンネルやテレビの音声を受信することがあります。これは、広帯域受信機の内部干渉により発生する現象であり、受信機の故障ではありません。
-  ■ 日本国内で使用してください。
本機の仕様は日本国内向けとなっています。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。

2. 製品の構成

お買い上げいただいたRT-619DXは次の品目から構成されています。

- RT-619DX本機 1個
- ラバーアンテナ 1本 (付属品)
- ロッドアンテナ 1本 (付属品)
- ワイヤアンテナ 1本 (付属品)
- ACアダプター 1個 (付属品)
- シガーライタープラグ 1個 (付属品)
- イヤホン 1個 (付属品)
- ハンドストラップ 1個 (付属品)
- 取扱説明書兼保証書 1冊 (本冊子)

なお、別売品としてマグネット式車載アンテナ(MRA-5)があります。

3. 製品の有する機能

■ 簡単操作の高性能受信機

情報受信機能をコンパクトボディに集約。ワイドな情報を超高感度でキャッチします。さらに、新開発マイクロコンピュータの採用と、液晶表示との対話形式により、操作はいたって簡単です。

■ メインレシーバーとサブレシーバーの2バンド同時受信

メインレシーバーは、0.5~1300MHzの広帯域をフルカバー。さらに、全バンドでFMナロー/FMワイド/AM/SSBの受信モードを搭載していますので、聴きたい情報を逃さずキャッチします。また、サブレシーバーは、117~170MHz及び339~443MHzをFMナロー/AMモードでサーチします。

■ 多彩で大容量のメモリーバンク

よく聴くエリアを30エリア(10エリア×3バンク)メモリープリセット済み。さらに大容量のメモリーバンクを4ブロック(1バンク+3メモリー)に分けることにより、使用頻度や目的に応じてメモリー登録できます。その他、受信に不要なチャンネルをパスするチャンネルパスメモリーやプライオリティメモリーを搭載しています。

	ブロック	メモリー数	メモリー
メモリーバンク	A	10エリア(プリセット済み)	携帯電話(基地局)・コードレス電話・パーソナル無線など
	B	10エリア(プリセット済み)	携帯電話(移動局)・航空無線・防災無線など
	C	10エリア(プリセット済み)	AM・FMラジオ放送・テレビ音声・短波放送など
	AB	10エリア	
メモリー	A	200チャンネル(20チャンネル×10グループ)	初期はメモリー無し
	B	200チャンネル(20チャンネル×10グループ)	
	C	600チャンネル	
	パスメモリー	200チャンネル	初期はメモリー無し
	プライオリティ	10チャンネル	1チャンネルはプリセット済み

*バンクA・B・Cはメモリー登録できません。

■ 盗聴電波の受信

VHF帯及びUHF帯を使用した無線式盗聴器の発信電波を受信します。さらに、よく使用されるチャンネルを専用バンドとしてメモリーバンクに登録しています。

■ 秘話解読機能

コードレス電話の秘話通話(音声反転方式)を解読します。

■ パーソナル無線のデータ解読

パーソナル無線の郡番号及びID番号を解読し、ディスプレイに表示します。

■ 受信状態が一目でわかるレベルメーター付き

■ 便利な機能を満載

- アッテネーター機能
- チャンネルリバース
- キーロック
- バックライト照明

4. ご使用になる前に

1. 電源について

本機の電源は乾電池(単3形 4本)を使用します。アルカリ乾電池の場合は、約8時間連続使用できます。また、付属のACアダプターやシガーライタープラグにより、家庭用電源(AC100V)および自動車用電源(DC12V)からもご使用になれます。

外部電源を使用する場合

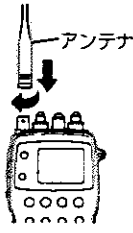
- ACアダプターやシガーライタープラグを使用して、外部電源を本機に接続する時は、必ず本機の電源を切ってから接続してください。

注意 乾電池の交換後や外部電源の接続後に、はじめて電源スイッチを入れた場合、電源がONになるまでに5~6秒かかります。この間電源スイッチを押し続けてください。二回目以降は2~3秒でONになります。

2. 付属品の取付け方法

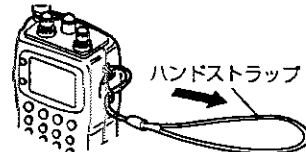
① アンテナの取付け

本体のアンテナ端子に付属のアンテナを取付けます。アンテナ端子の突起部と、アンテナの溝を合わせて押し込み、右(時計方向)に1/4回転回して固定します。



② ハンドストラップの取付け

本体のハンドストラップ取付け穴に図のように通して取付けます。



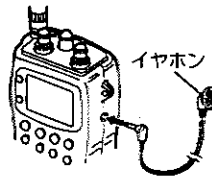
ちょっとひと言

- 付属のメインレシーバー用アンテナはロッドアンテナとラバーアンテナの2種類あります。ロッドアンテナはオールバンドで使用できます。また、300MHz以上の高周波の場合は、ラバーアンテナの方が感度良く受信できます。
- 付属のアンテナ以外に市販のアンテナ(BNC型)も使用できます。市販のアンテナを使用する場合は、目的の周波数の合う、インピーダンスが50Ωのものを使用してください。

3. イヤホンで聴く場合

イヤホンでお聴きになる場合は、必ず音量を下げてから、イヤホンを装着してください。

- 音量ボリュームを下げ、付属のイヤホンを本体側面のイヤホンジャック(EAR)に接続します。イヤホンを接続すると、本体内蔵のスピーカーからは音が出ません。



- イヤホンを装着した後、音量ボリュームを回して適度な音量にします。

ちょっとひと言

- イヤホンで聴く場合、音量ボリュームが同じ位置でも、スピーカーで聴く場合よりかなり音が大きく聴こえます。イヤホンで聴く場合は、音量に注意してください。

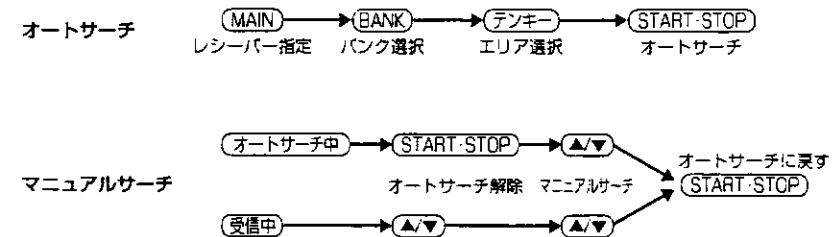
5. 操作方法 **ステップ1**

〈簡単受信をしてみましょう〉

- 1. 名称とはたらきP10
- 2. 受信方法
 - 受信エリアをオートサーチするP11
 - エリア内をマニュアルサーチするP13

本機はよく聴くエリアを30エリア(3バンク×10エリア)に分けてメモリーバンクにプリセットしています。お聴きになりたいエリアを、簡単に呼び出してサーチします。

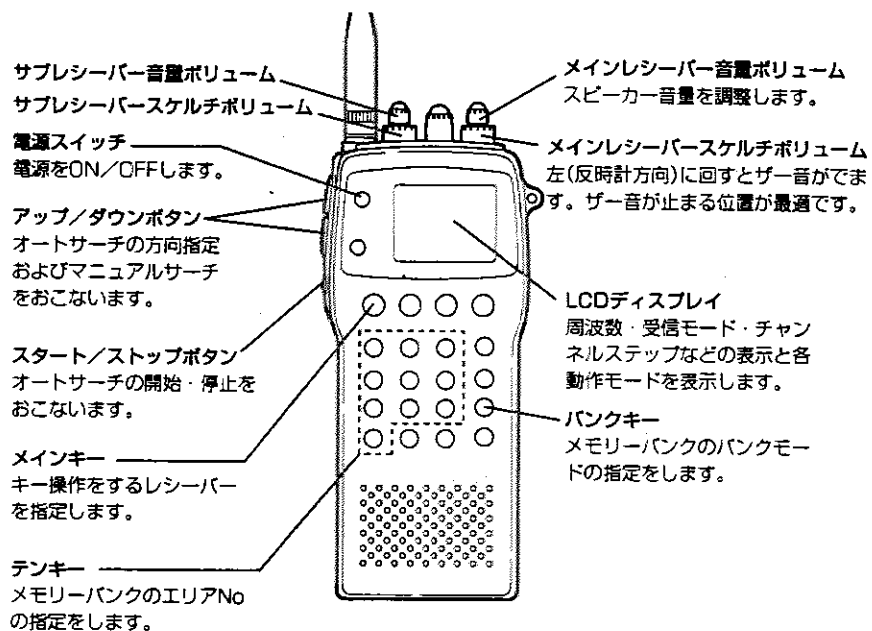
操作方法一覧



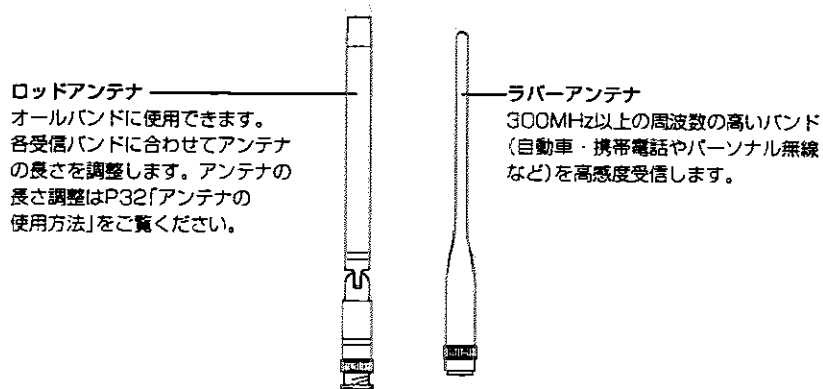
メモリーバンクの受信エリア

エリアNo	BANK A	BANK B	BANK C
1	NTT自動車・携帯電話基地局	NTT自動車・携帯電話移動局	AMラジオ放送
2	新電々系携帯電話基地局	新電々系携帯電話移動局	FMラジオ放送
3	コードレス電話	タクシー無線	テレビ音声(VHF・UHF)
4	アマチュア無線(VHF帯)	航空無線(VHF帯)	船舶無線1
5	アマチュア無線(UHF帯)	航空無線(UHF帯)	船舶無線2
6	パーソナル無線1	防災行政無線	短波放送1
7	パーソナル無線2	コンビニンス・ラジオホン	短波放送2
8	業務用無線	消防・救急無線	CB無線
9	バス・簡易・鉄道無線	航空無線電話・マリネットホン	ワイヤレスマイク
0	道路公団・特定小電力トランシーバー	盗聴電波	アマチュア無線(HF帯)

1. 名称とはたらき



—— メインレシーバー用アンテナ ——



2. 受信方法

① 受信エリアをオートサーチする

メモリーバンクに登録済みのエリアをオートサーチして、チャンネルを受信する。

操作方法

(例) BANK[A]のエリア[1]に登録してある受信エリア(NTT自動車・携帯電話基地局)をオートサーチして受信する。

- 1 電源を入れる
電源スイッチ (POWER) を押すと、LCDディスプレイが表示します。
- 2 音量を調整する
メインレシーバー側の音量ボリュームを回して適度な音量にします。
サブレシーバー側の音量ボリュームは左(反時計方向)に回して、音量を小さくしてください。
- 3 スケルチを調整する
メインレシーバー側のスケルチボリュームを回して、ザー音が止まる位置に調整します。
注意 スケルチボリュームを右(時計方向)に回し過ぎると、オートサーチはしますが、弱い電波が受信できなくなります。また左(反時計方向)に回し過ぎると、オートサーチしなくなります。(START-STOP) ボタンを押して、スケルチボリュームの位置を確認してください。
- 4 レシーバーの指定をする
(MAIN) キーを押して、メインレシーバー側を指定します。
キーを押すと、LCDディスプレイの「>」マークが上下に移動します。
「>」マークが上側の場合は、メインレシーバー側の操作となります。
「>」マークが下側の場合は、サブレシーバー側の操作となります。
- 5 BANK[A]を指定する
(BANK) キーを押して、BANK[A]を指定します
キーを押す度に BANK[A] → [B] → [C] → [AB] の順に切り替わります。
- 6 エリアNo.を指定する
テンキーの ① を押します。
エリアNoを指定すると、指定したエリアの最初のチャンネル(周波数)・受信モード・チャンネルステップ・ホールド/ディレイを表示します。
ディスプレイ表示

FHM	
8700	12.5
BANK A: 23	DELAY
FHM	
3802	12.5
- 7 オートサーチ(自動選局)する
(START-STOP) ボタンを押すと、最初のチャンネルより上側にサーチを開始します。
アドバイス オートサーチ中に、アップ/ダウン (▲/▼) ボタンを押すと、押した方向(アップは上側、ダウンは下側)にオートサーチします。



⑧ チャンネルを受信する

使用しているチャンネル(周波数)があると、そのチャンネルで受信状態になります。チャンネルを受信すると、LCDディスプレイに「**BUSY**」マークが点灯し、受信電波の強さをレベルメーターで表示します。



⑨ 受信中のチャンネルが終了または、電波が非常に弱くなって受信できない場合は、ディレイ時間分受信待機した後、次に使用しているチャンネルまでオートサーチを開始します。

ディレイ時間はエリアごとに初期設定し、メモリー登録してあります。各受信エリアのディレイ時間はP19「メモリーバンクの受信エリア」をご覧ください。

注意 LCDディスプレイに「HOLD」を表示している場合は、そのチャンネルで受信待ちになっており、そのままではオートサーチしません。オートサーチさせる場合は、**(START-STOP)** ボタンを押します。

⑩ チャンネルを受信中に他のチャンネルをサーチしたい場合は、**(START-STOP)** ボタンを押します。

アドバイス メインレシーバーで受信中のチャンネルを、サブレシーバーへ移してそのままサブレシーバーで受信することができます。
→P23「チャンネルモニター」をご覧ください。

ちょっとひと言

- 電源スイッチを押した時に、LCDディスプレイが何も表示しなかったり、「**C**」マークを表示している場合は、電池が消耗していますので、電池交換をおこなってください。
- キーロック表示
LCDディスプレイに「**OK**」マークを表示している場合は、キーロック状態になっています。キーロックすると、キーボード(機能キーとテンキー)でのキー操作が何もできなくなります。
(START-STOP) ボタンおよびアップ/ダウンボタンは操作できます。
(LIGHT-KEY) キーを2秒以上押し続けると、キーロックを解除します。
- ホールド(HOLD)とディレイ(DELAY)
LCDディスプレイに表示している「HOLD」または「DELAY」とは、オートサーチまでの受信待ち時間条件のことです。「HOLD」は一度電波を受信すると、電波が無くなっても、そのチャンネルで受信待ちの状態になります。
一方、「DELAY」はディレイ時間(設定された時間)受信待ちをした後、オートサーチを始めます。ディレイ時間は各エリアごとに初期設定し、メモリー登録してあります。

② エリア内をマニュアルサーチする

メモリーバンクに登録済みのエリアをマニュアル操作でサーチします。アップ/ダウン **(▲/▼)** ボタンでサーチします。

操作方法

- 1 受信エリアを呼び出す
①「受信エリアをオートサーチする」をおこなって、受信エリア(バンク及びエリアNo)を指定します。
- 2 オートサーチを解除する
オートサーチ中は **(START-STOP)** ボタンを1回押します。
オートサーチが停止している時(受信中)は、アップ/ダウン **(▲/▼)** ボタンを押します。
- 3 アップ/ダウン **(▲/▼)** ボタンを押す
ボタンを押す度に、押した方向(アップは上側、ダウンは下側)に1ステップずつ受信チャンネルが移動します。
アドバイス 受信チャンネルの移動するステップ(チャンネルステップ)は、各エリアごとに初期設定し、メモリー登録してあります。チャンネルステップを変更する場合は、P41「チャンネルステップの設定」をご覧ください。
- 4 アップ/ダウン **(▲/▼)** ボタンを押し続けた場合は、ボタンを離すまで受信エリア内をサーチします。→**マニュアルサーチ**
- 5 オートサーチする場合は、**(START-STOP)** ボタンを押します。

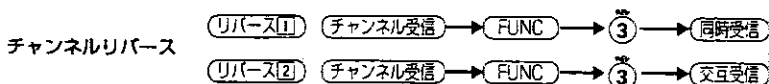
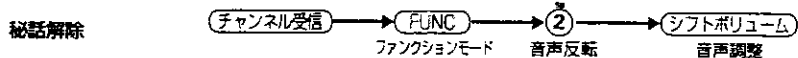
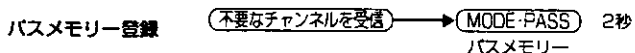
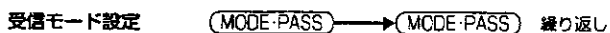
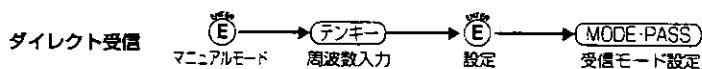
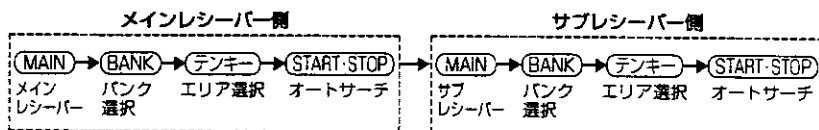
6. 操作方法 **ステップ2**

〈マニュアル操作にチャレンジしましょう〉

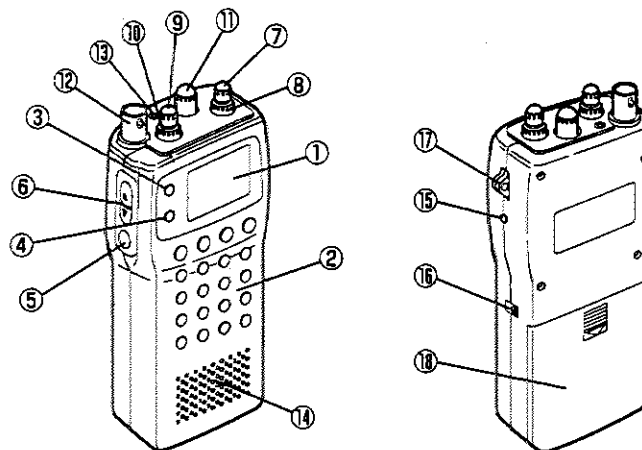
- 1. 名称の名称とはたらき……………P15
- 2. メモリーバンクの受信エリア……………P19
- 3. 2バンド受信……………P21
- 4. チャンネルモニター……………P23
- 5. ダイレクト受信……………P24
- 6. 受信モードの設定……………P25
- 7. バスメモリーの登録と消去……………P27
- 8. 秘話通信(スクランブル)の解除……………P28
- 9. チャンネルリバース……………P29
- 10. パーソナル無線のデータ解除……………P31
- 11. アンテナの使用……………P32

操作方法一覧

2バンド受信



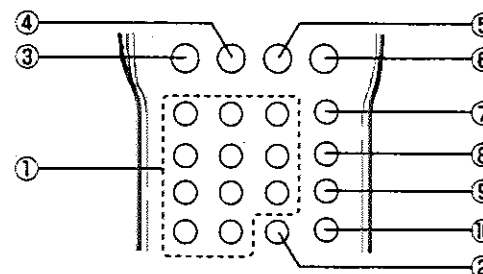
1. 各部の名称とはたらき



- ① **LCDディスプレイ**
周波数・チャンネルステップ・受信モードなどの表示と、各動作モードを表示します。
- ② **キーボード**
受信エリア・周波数などを指定する数値キー(テンキー)と、各機能を持った機能キーがあります。
- ③ **電源スイッチ**…… (POWER)
電源をON/OFFします。
スイッチを押すと電源が入り、再度1秒以上押すと、電源が切れます。
- ④ **ライト/キーロック キー**…… (LIGHT-KEY)
LCDディスプレイ及びキーボードのバックライトを一定時間点灯します。
また、2秒間の押し続けによりキーロック動作となり、キーボードのキー操作ができなくなります。
- ⑤ **スタート/ストップ ボタン**…… (START-STOP)
オートサーチ(自動選局)の開始/停止をおこないます。
- ⑥ **アップ/ダウン ボタン**…… (▲/▼)
オートサーチの方向指定・マニュアル選局およびメモリーチャンネルの検索などをおこないます。
- ⑦ **メインレシーバー音量ボリューム**…… (VOL)
メインレシーバー側のスピーカー及びイヤホンの音量を調整します。
右(時計方向)に回すと音量が大きくなります。
- ⑧ **メインレシーバースケルチボリューム**…… (SQL)
メインレシーバー側のノイズスケルチを調整します。左(反時計方向)に回すとザー音が出ます。右(時計方向)に回すと、ザー音が消えます。
ザー音が出る直前の位置が最適です。

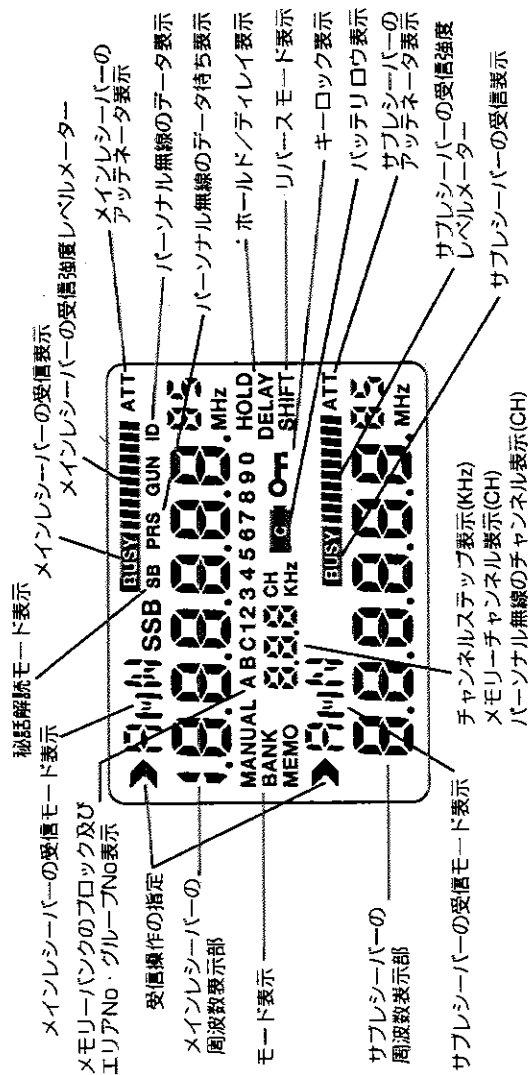
- ⑨ サプレシーバー音量ボリューム
サプレシーバー側のスピーカー及びイヤホンの音量を調整します。
右(時計方向)に回すと、音量が大きくなります。
- ⑩ サプレシーバースケルチボリューム
サプレシーバー側のノイズスケルチを調整します。
左(反時計方向)に回すとザー音が出ます。
右(時計方向)に回すと、ザー音が消えます。
ザー音が出る直前の位置が最適です。
- ⑪ シフトボリューム……(SHIFT)
受信モードがSSBの時は、音声周波数の調整をします。
音声反転式の秘話解読時は、キャリア調整をします。
- ⑫ メインアンテナ端子
付属のアンテナを接続します。また、市販のアンテナ(BNC型)も接続できます。
- ⑬ サブアンテナ入力端子……(ANT)
付属のワイヤーアンテナを接続します。
- ⑭ スピーカー
- ⑮ イヤホンジャック……(EAR)
付属のイヤホン(モノラル)を接続します。
イヤホンを接続すると、スピーカーからは音が出ません。
- ⑯ 外部電源ジャック……(DC12V)
付属のACアダプターやシガーライタープラグを接続します。
- ⑰ ハンドストラップ取付け部
付属のハンドストラップを取付けます。
- ⑱ 電池蓋
電池を交換する時にスライドして外します。

<キーボード部>



- ① 数値キー(テンキー) ①～⑩・⑪
周波数の入力やエリアNoの指定及びチャンネルNoの指定をします。
また、ファンクションキーとの組み合わせにより、いろいろ便利な機能があります。
- ② エンターキー (ENTER)
バンクまたはメモリーモードからマニュアルモードに切換えます。
また、周波数の入力時やメモリー登録時などの設定をします。
- ③ メインキー (MAIN)
受信操作をおこなうレシーバー(メインレシーバーまたはサプレシーバー)の指定をします。
- ④ プログラム/プライオリティキー (PRO:PRI)
プログラム受信の開始/停止をします。
また、2秒間の押し続けにより、プライオリティ受信の開始/停止をします。
- ⑤ ホールド/ディレイキー (HOLD:DELAY)
自動選局時の受信待ち時間(ディレイ時間)の設定をします。
- ⑥ ファンクションキー (FUNC)
秘話解除・メモリーの登録と消去・チャンネルリバース・アッテネーターON/OFF
など、各種機能をおこなう時に使用します。
- ⑦ モード/パスキー (MODE:PASS)
受信モードを切換えます。
また、2秒間の押し続けにより、受信中のチャンネルをパスメモリーに登録します。
- ⑧ ステップ/セットキー (STEP:SET)
チャンネルステップを切換えます。
また、2秒間の押し続けにより、ダイレクトメモリーの登録モードになります。
- ⑨ バンクキー (BANK)
メモリーまたはマニュアルモードからバンクモードに切換えます。
また、バンクのブロック指定をします。
- ⑩ メモリーキー (MEMO)
バンクまたはマニュアルモードからメモリーモードに切換えます。
また、メモリーのブロック指定をします。

<LCDディスプレイ>



2. メモリーバンクの受信エリア

本機は、よく聴く受信エリアを30エリア(3バンク×10エリア)に分けてメモリーバンクにプリセットしています。

お聞きになりたい受信エリアを簡単に呼び出して、オートサーチします。

バンク	エリア No	受信エリア	受信周波数 (MHz)	チャンネルステップ (KHz)	受信モード	デレイ時間 (秒)
A	1	NTT自動車・携帯電話基地局	870.0125~884.9875	12.5	FM N	2
	2	新電々系携帯電話基地局	843.0125~845.9875 860.0125~869.9875	12.5	FM N	2
	3	コードレス電話	380.2125~381.3125	12.5	FM N	2
	4	アマチュア無線 (VHF帯)	144.0000~146.0000	10	FM N	5
	5	アマチュア無線 (UHF帯)	430.0000~440.0000	10	FM N	5
	6	パーソナル無線1	899.0375~904.9875	12.5	FM N	5
	7	パーソナル無線2	889.0375~898.9875	12.5	FM N	5
	8	業務用無線	146.0600~161.1300 364.7500~399.6000 414.6000~450.2250	10/ 25/ 50	FM N	5
	9	バス・簡易・鉄道無線	142.9000~160.0000 336.0000~415.2000 465.0500~468.8500	10/20/ 25/50	FM N	5
	0	道路公団・特定小電力トランシーバー	149.4500~150.8500 340.8500~399.3750 412.0125~440.3625	12.5	FM N	2
B	1	NTT自動車・携帯電話移動局	925.0125~393.9875	12.5	FM N	2
	2	新電々系携帯電話移動局	898.0125~900.9875 915.0125~924.9875	12.5	FM N	2
	3	タクシー無線	364.8750~365.5000 450.0125~451.5000	12.5	FM N	5
	4	航空無線 (VHF帯)	118.0000~142.0000	50	AM	5
	5	航空無線 (UHF帯)	225.0000~368.2000	100	AM	5
	6	防災行政無線	57.2600~ 69.7650 143.2600~166.2300 353.2000~467.3750 846.2500~849.7500	12.5/ 25/ 50	FM N	5
	7	コンビニエンス・ラジオホン	815.0125~820.9875	12.5	FM N	2
	8	消防・救急無線	142.0400~166.2300 357.9500~398.9250	10/125 12.5	FM N FM N	5 2
	9	マリネットホン 航空無線電話	830.0125~833.9875 885.0125~888.9875	12.5	FM N	2
	0	盗聴電波	—	—	FM N	5

1	AMラジオ放送	0.504 ~1.629	9	AM	ホールド
2	FMラジオ放送	76.100 ~89.900	100	FM W	ホールド
3	テレビ音声 (1~62CH) VHF・UHF	95.75 ~221.75 475.75 ~769.75	6MHz	FM W	ホールド
4	船舶無線1	4.065 ~8.812	3	SSB	ホールド
5	船舶無線2	12.230 ~22.852	3	SSB	ホールド
6	短波放送1	5.950 ~12.040	5	AM	ホールド
7	短波放送2	13.605 ~21.825	5	AM	ホールド
8	CB無線	26.505 ~27.865 422.2000~422.3000	5/12.5	SSB/FM N	5
9	ワイヤレスマイク	226.0500~249.300 427.0750~519.0000 797.1250~809.7500	125/50	FM W	ホールド
0	アマチュア無線 (HF帯)	3.5250 ~29.6100	1/5	SSB/FM N	5

このエリアは、サブレシーバーの受信可能なエリア

ちょっとひと言

- サブレシーバーでは、受信できないエリアがあります。

サブレシーバーの受信できないエリア

- BANK A: エリアNo1, 2, 6, 7は受信できません。
- BANK B: エリアNo1, 2, 7, 9は受信できません。
- BANK C: 受信できません。

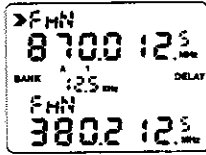
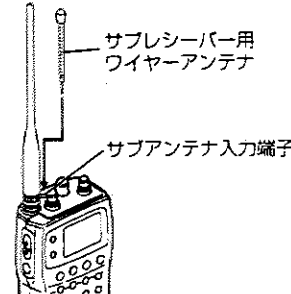

- また、受信エリア内でも、サブレシーバーの受信周波数範囲外のチャンネルは受信できません。
- チャンネルステップ・受信モード及びディレイ時間は変更することができます。受信モードを変更する場合はP25「受信モードの設定」をご覧ください。チャンネルステップを変更する場合はP41「チャンネルステップの設定」をご覧ください。ディレイ時間を変更する場合はP42「ディレイ時間の設定」をご覧ください。

3. 2バンド受信

メインレシーバーとサブレシーバーでそれぞれ違う受信エリアをサーチします。
(MAIN) キーにより、受信操作するレシーバーを指定して、キー操作します。

操作方法

(例) メインレシーバーは、BANK A・エリア1 (NTT自動車・携帯電話基地局) をサーチし、サブレシーバーは、BANK B・エリア5 (航空無線) をサーチする。

- 1 **メインレシーバーを指定する**
(MAIN) キーを押して、「>」マークを上側(メインレシーバー側)にします。
ディスプレイ表示

- 2 **メインレシーバー側の受信エリアを指定し、オートサーチする。**
(BANK) キーを押して、BANK Aを指定します。
 テンキーの①を押して、エリア1を指定します。
(START-STOP) ボタンを押してオートサーチします。
- 3 **次にサブレシーバーを指定する**
(MAIN) キーを押して、「>」マークを下側(サブレシーバー側)にします。
- 4 **サブレシーバーの音量及びスケルチを調整します**
 P11「受信エリアをサーチする」をご覧になって、メインレシーバー側と同じ操作をおこないます。
- 5 **サブアンテナを取付ける**
 付属のサブレシーバー用ワイヤーアンテナを本体のアンテナ入力端子に差し込みます。

- 6 **サブレシーバー側の受信エリアを指定し、オートサーチする**
(BANK) キーを押して、BANK Bを指定します。
 テンキーの⑤を押して、エリア5を指定します。
(START-STOP) ボタンを押してオートサーチします。
注意 サブレシーバーの受信できないエリアを指定した場合は、キートーンが鳴って、指定したエリアはキャンセルされます。サブレシーバーで受信可能なエリアを指定してください。
ディスプレイ表示


7 チャンネルを受信する

チャンネルを受信すると、メインレシーバー及びサブレシーバー共に、それぞれ **BUSY** マークが点灯し、受信電波の強さをレベルメーターで表示します。

アドバイス メインレシーバーとサブレシーバーで、それぞれチャンネルを同時受信して、音声がかきづらい場合は、片方の音声を消すことができます。
FUNC → ⑧ : メインレシーバー側の音声を消します。
FUNC → ⑧ → ⑧ : サブレシーバー側の音声を消します。
その後は ⑧ キーを押す度に交互に音声を消します。
詳しくは、P50<ミュート機能>をご覧ください。



ちょっとひと言

- **(MAIN)** キーについて
本機は、メインレシーバーとサブレシーバーの2つのレシーバーを内蔵していますので、キー操作をする場合は、**(MAIN)** キーを押して、操作する方のレシーバーを指定してください。オートサーチ(**(START/STOP)** ボタン)する場合も、レシーバーを指定します。
(MAIN) キーを押すと、LCDディスプレイの「>」マークが上下に切り替わります。
「>」マークが上側にある場合は、メインレシーバーの指定となり、下側にある場合は、サブレシーバーの指定となります。

4. チャンネルモニター

オートサーチで受信したチャンネル(周波数)をサブレシーバー側に移動して、そのままモニターすることができます。

操作方法

(例) メインレシーバーで受信したチャンネル(380.2125MHz)をサブレシーバーに移動し、メインレシーバー側は他のチャンネルをサーチする。

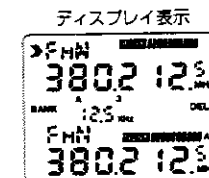
1 メインレシーバーでチャンネルを受信する

注意 「>」マークがメインレシーバー側(上側)にあることを確認してください。



2 FUNC キーを押す

LCDディスプレイのメインレシーバー側に「F」が点滅します。



3 ⑦ キーを押す

メインレシーバーで受信中のチャンネル(380.2125MHz)がサブレシーバー側に移動し、そのまま受信します。チャンネルを移動すると、移動された方(サブレシーバー側)はバンクモードからマニュアルモードに変わります。

注意 サブレシーバーで受信できないチャンネルを、サブレシーバー側に移動しようとした場合は、「Error」を表示して、チャンネルの移動をキャンセルします。

4 メインレシーバー側は他のチャンネルをオートサーチできます

サブレシーバー側は、移動されたチャンネルで受信したままになります。
→ **チャンネルモニター**

ちょっとひと言

- チャンネルの移動は、「>」マークのある方から「>」マークの無い方に移動します。サブレシーバー側からメインレシーバー側にチャンネルを移動することもできます。「>」マークをサブレシーバー側(下側)にして、チャンネルモニターを操作します。
- チャンネルを移動された方のレシーバーは、バンクモードからマニュアルモードに切り替わります。元の状態(バンクモード)に戻す場合は、**(MAIN)** キーによりレシーバー指定をしてから **(BANK)** キーを押します。

5. ダイレクト受信

お聴きになりたい周波数(チャンネル)をキーボードより入力し、ダイレクトに、入力したチャンネルを受信します。

<ダイレクト受信が可能な周波数範囲>

メインレシーバー：0.5MHz～1300MHz

サブレシーバー：117MHz～170MHz及び339MHz～433MHz

操作方法

(例) 受信周波数871.0125MHzを受信モードFMナローでダイレクト受信する

① メインレシーバーを指定する

(MAIN) キーを押して、「>」マークをメインレシーバー側(上側)にします。

② E キーを押して、マニュアルモードにする

LCDディスプレイが「BANK」から「MANUAL」に切り替わります。

③ 受信する周波数871.0125(MHz)を入力する

テンキーにより④⑦①①①②⑤の順に入力します。入力ミスした場合は、

⊙キーを2回押して、再度入力します。



④ E キーを押す

入力したチャンネルで受信状態になります。

⑤ 受信モードを指定する

(MODE-PASS) キーを押して、受信モードを[FMN]に切替えます。

注意 受信周波数の受信モードと一致するように、受信モードを設定してください。受信モードが違う場合は、正常な音声で聴くことができません。受信モードがわからない場合は、正常な音声で聴こえるように、受信モードを切替えてください。

解除方法 ダイレクト受信を解除する場合は、(BANK) キーを押します。マニュアルモードからバンクモードに切り替わります。

——ちょっとひと言——

- 周波数の入力後に E キーを押すと、入力したチャンネルの小数点以下の桁がチャンネルステップと一致するように自動補正されます。
 例えば、チャンネルステップが12.5kHzの場合は、871.015を入力すると、871.0125に補正されます。受信周波数に合うように、チャンネルステップを変更してください。
- マニュアルモードにすると、エリア指定の範囲がなくなり、上記受信周波数範囲内で、オートサーチやマニュアルサーチが可能です。

6. 受信モードの設定

受信エリアの全チャンネルで、受信モードを切替えることができます。また、切替えた受信モードでオートサーチ及びマニュアルサーチができます。

——切替え可能な受信モード——

メインレシーバー：FMナロー(FMN)・FMワイド(FMW)・AM・AMSSBの4モード
 サブレシーバー：FMナロー(FMN)・AMの2モード

操作方法

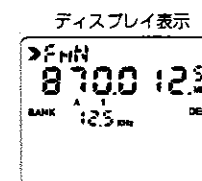
(MODE-PASS) キーを押して、受信モードを切替えます。

(例) BANK[A]のエリア①の受信モードを[AM]に切替えてオートサーチする。

① BANK[A]のエリア①を指定する

(BANK) キーを押して、BANK[A]を指定します。テンキーの①を押して、エリア①を指定します。

BANK[A]のエリア①の場合、初期設定の受信モード「FMN」を表示します。



② 受信モードを切替える

(MODE-PASS) キーを押して、[AM]に切替えます。

メインレシーバー側の場合は、[FMN]→[FMW]→

[AM]→[AMSSB]の順に切り替わります。

サブレシーバー側の場合は、[FMN]↔[AM]と交互に切り替わります。



③ オートサーチする

(START-STOP) ボタンを押します。

BANK[A]のエリア①の受信エリアを、AMモードでオートサーチします。

——ちょっとひと言——

- 受信バンドと受信モードが合っていない場合、受信チャンネルの音声が変な音声になります。正常な音声で聴こえるように、受信モードを切替えてください。
アドバイス 受信バンドと受信モードの関係は、P19「メモリーバンクの受信エリア」をご覧ください。

<SSBモードでの受信方法>

受信モードがAM SSBの場合は、他の受信モードで受信する場合とは違う操作になります。

SSBモードで受信する場合

① マニュアル選局になります。

アップ/ダウン(▲/▼)ボタンにより、1ステップずつ電波がでているチャンネルを捜します。

② BFO調整による受信となります。

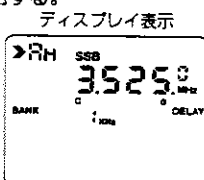
音声周波数が同調するように、シフトボリューム(SHIFT)を左右に回して調整します。

操作方法

(例) BANK [C] のエリア [0] (アマチュア無線) をSSBモードで受信する。

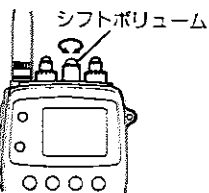
① BANK [C] のエリア [0] を呼び出す

[BANK] キーを押して、BANK [C] を指定します。
次にテンキーの [0] を押します。
受信モードがAM SSBとなっていることを確認してください。



② マニュアル選局により、電波が出ているチャンネルを受信する
アップ/ダウン(▲/▼)ボタンにより、音声聞こえるチャンネルを1ステップずつ受信して捜します。

アドバイス SSBモードで受信する場合は、チャンネルステップを小さく設定した方が、受信しやすくなります。



③ シフトボリュームにより、音声周波数を同調する

[SHIFT] ボリュームを左右に回して、音声聞こえ取りやすい位置に調整します。

7. バスメモリーの登録と消去

① バスメモリーの登録

<受信中のチャンネルをバスメモリーにメモリー登録する>

受信に不要なチャンネル(制御チャンネルなど)をバスメモリーに登録しておくこと、オートサーチ中はメモリー登録したチャンネルをパスします。

登録方法

① 不要なチャンネル(周波数)を受信する

オートサーチ中に不要なチャンネルを受信する。不要なチャンネルがわかっている時は、ダイレクト受信する。



② [MODE-PASS] キーを2秒以上押す

LCDディスプレイに「PASS」及びチャンネルNo「000CH」を1秒間表示し、表示したチャンネルNoでバスメモリーに登録します。

ちょっとひと言

- バスメモリーの登録は(バンクモード時(BANK指定時)で、チャンネルを受信した場合のみメモリー登録できます。
- バスメモリーは、登録した順番のチャンネルNoでメモリー登録されます。バスメモリーのチャンネルNoは000CH~199CHまで200チャンネルあります。

② バスメモリーの消去

<バスメモリーに登録したチャンネルを取り消す>

消去方法

(例) バスメモリーのチャンネルNo [100CH] に登録したチャンネル(周波数)を取り消す。

① [FUNC] キーを押す

② [MODE-PASS] キーを押す

LCDディスプレイに、最後に登録したチャンネルを表示します。

③ 消去するチャンネルNoを指定します。

テンキーにより [1] [0] [0] を入力します。または、アップ/ダウン(▲/▼)ボタンを押して検索します。



④ [E] キーを押す

指定したチャンネルNoのバスメモリーを消去します。

解除方法

バスメモリーの消去モードを解除する時は [START-STOP] ボタンを押すか、テンキー以外の機能キーを押します。

ちょっとひと言

- バスメモリーを消去した場合は、チャンネルNoが繰り下がります。
例えば、チャンネルNo [005CH] のバスメモリーを消去した場合は、消去前のチャンネルNoが [100CH] のチャンネル(周波数)は、消去後 [099CH] に変わります。

8. 秘話通信(スクランブル)の解読

コードレス電話の秘話通信機能(スクランブル機能)は、主に音声反転式と呼ばれている方式が使用されています。秘話通信機能がかかった通信を受信した場合、そのままでは音声として聴くことができません。

本機は、コードレス電話の音声反転式秘話通信を解読することができます。

注意 サブレシーバー側は秘話解除できません。秘話解除する場合は、メインレシーバー側でおこなってください。

操作方法

BANK [A] のエリア [3] (コードレス電話) をオートサーチ中、秘話通信がかかったチャンネルを受信した時に、[FUNC] キーを押し、次にテンキーの [2] を押します。

① メインレシーバーでBANK [A] のエリア [3] (コードレス電話) をオートサーチする

② 秘話通信を受信する

モガモガと言っているような、変な音声が聞こえてきます。

③ [FUNC] キーを押す

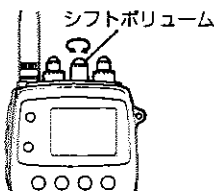
LCDディスプレイに「F」を点滅します。

④ 5秒以内に、テンキーの [2] を押します。

秘話解読モードとなり、LCDディスプレイに「SB」を表示します。

⑤ シフトボリュームを調整する

[SHIFT] ボリュームを左右に回して、音声が聴き取りやすい位置に調整します。



解除方法 秘話解読モードを解除(取り消す)場合は、[FUNC] キーを押した後に、テンキーの [2] を押します。また、オートサーチなどで受信チャンネルが変わった場合も、秘話解読モードを解除します。

——ちょっとひと言——

- 秘話通信がかかっていないチャンネルを受信中に、誤って秘話解読モードの操作をした場合は、音声反転した状態となります。元の状態に戻す時は**解除方法**をおこなってください。
- コードレス以外の音声反転式秘話通信は解読できません。自動車電話や携帯電話の音声反転式秘話通信は、コードレス電話とは違う種類が使用されているため、解読できません。

9. チャンネルリバース

基地局と移動局のある受信バンドにおいて、基地局側と移動局側のチャンネルを同時受信または、交互に切換えて受信することができます。

チャンネルリバースをおこなうには、バンクモードでリバースモードが可能なチャンネルを受信した場合のみチャンネルリバースができます。

また、受信バンドにより、2種類のリバースモードとなります。

① リバースモード [1] : メインレシーバーとサブレシーバーにより、基地局側と移動局側のチャンネルをそれぞれ同時受信します。

リバースモード [1] が可能な受信バンド(周波数範囲)

受信バンド	基地局(MHz)	リバース	基地局(MHz)
道路公団無線	357.3500~357.3570	↔	340.8500~340.8750
BANK [A] ・エリア [3]	398.8000~398.8625	↔	382.8000~382.8625
救急無線	146.0400~147.7800	↔	142.0400~143.7800
BANK [B] ・エリア [3]	395.2875~395.5625	↔	371.1875~371.4625

例えば、メインレシーバー側で基地局のチャンネルを受信中にチャンネルリバースをおこなうと、サブレシーバー側で移動局のチャンネルを受信します。また、サブレシーバー側でチャンネルを受信した場合でもチャンネルリバースできます。

操作方法

(例) メインレシーバー側で340.8500MHz(道路公団無線の移動局)を受信中にリバースモードをおこなう場合

① バンクサーチでリバースモードが可能なチャンネルを受信する

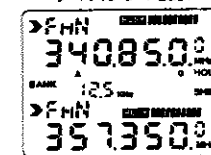
リバースモードが可能なチャンネルを受信した場合、LCDディスプレイに「SHIFT」が点滅します。

② [FUNC] キーを押す

リバースモード

③ テンキーの [3] を押す

チャンネルリバースします。リバースモード中はLCDディスプレイの「SHIFT」表示が、点滅から点灯表示に切り替わります。(例)の場合は、サブレシーバー側で357.3500MHz(基地局)を受信します。



解除方法 リバースモード [1] を解除する場合は、[FUNC] キーを押した後にテンキーの [3] を押します。また、リバース中のチャンネルを変えた場合もリバースモードを解除します。

② リバースモード②：メインレシーバー側で基地局と移動局を交互に受信します。

リバースモード②が可能な受信バンド(周波数範囲)

受信バンド	基地局(MHz)	リバース	移動局(MHz)
航空無線電話 BANK ⑧・エリア ⑧	830.0125~833.9875	↔	885.0125~888.9875
NTT自動車・携帯電話 (BANK ①・エリア ①)	870.0125~884.9875	↔	925.0125~939.9875 (BANK ⑧・エリア ①)
新電々系携帯電話 (BANK ①・エリア ②)	843.0125~845.9875 860.0125~869.9875	↔	898.0125~900.9875 915.0125~924.9875 (BANK ⑧・エリア ②)

例えば、基地局のチャンネルを受信中にチャンネルリバースをおこなうと、移動局のチャンネルを受信し、その後はキー操作により、基地局と移動局のチャンネルを交互に切替えて受信できます。

操作方法

(例) 870.0125MHz(NTT自動車・携帯電話の基地局)を受信中にリバースモードをおこなう場合

- ① バンクサーチでリバースモードが可能なチャンネルを受信する
LCDディスプレイに“SHIFT”が点滅します。
- ② FUNC キーを押す
リバースモード
- ③ テンキーの ③ を押す
チャンネルリバースします。リバースモード中はLCDディスプレイの“SHIFT”表示が点滅から点灯表示に切り替わります。
(例)の場合は、受信中のチャンネル(870.0125MHz)が925.0125MHz(移動局)に切り替わります。
- ④ テンキーの ③ を押す度に、基地局と移動局のチャンネルを切替えて受信します。



解除方法 リバースモード②を解除する場合は、(START/STOP)ボタンまたはアップ/ダウン(▲/▼)ボタンを押して、受信チャンネルを変えてください。

ちょっと一言

- メモリーモード(MEMO表示)またはマニュアルモード(MANUAL表示)でチャンネルを受信する場合は、チャンネルリバースできません。(“SHIFT”表示しません)
- チャンネルリバースをおこなうと、オートサーチが解除されて、受信中のチャンネルでホールド状態になります。(LCDディスプレイの表示が“DELAY”から“HOLD”に切り替わります。) (START/STOP)ボタンまたはアップ/ダウン(▲/▼)ボタンを押して、受信チャンネルを変えるとホールド状態を解除します。

10. パーソナル無線のデータ解読

パーソナル無線において、受信チャンネルの郡番号とID番号を * 設定した時間LCDディスプレイに表示することができます。

* 初期設定は3秒間の表示になっています。0~9秒まで設定できます。

パーソナル無線のデータ待ちの時(LCDディスプレイに“PRS”を表示している時に)、パーソナル無線のチャンネルデータを受信した場合、チャンネルNoを表示し、郡番号→ID番号(上6桁)→ID番号(下6桁)の順にチャンネルデータを表示します。郡番号の表示時には“GUN”、ID番号の表示時には“ID”を表示します。

データ表示時間の設定

(例) パーソナル無線を受信中に、チャンネルデータの表示時間を5秒に設定する。

- ① FUNC キーを押す
LCDディスプレイに“F”が点滅します。
- ② ① を押す
キーを押すと、現在の設定時間を表示します。
- ③ 設定時間(秒)を入力します。
5秒の場合は、テンキーの ⑤ を押します。
LCDディスプレイに“5.5EC”を表示します。
- ④ ⑤ キーを押します。
キーを押すと、表示時間の設定をおこなう前の状態に戻ります。



ちょっと一言

- パーソナル無線のデータ解読は、バンクモードでパーソナル無線のチャンネルを受信した場合のみデータ解読をおこないます。メモリーモード(MEMO表示)または、マニュアルモード(MANUAL表示)でチャンネルを受信した場合は、データ解読はおこないません。データ解読をおこなう時は、LCDディスプレイに“PRS”を表示していることを確認してください。

11. アンテナの使用法

メインレシーバー用の付属アンテナは、ロッドアンテナとラバーアンテナの2種類あります。オールバンド受信をする場合は、ロッドアンテナを使用します。また、高周波(周波数が高いバンド)を高感度受信したい場合は、ラバーアンテナを使用します。



ロッドアンテナ

8段式伸長ロッドアンテナです。受信バンドの波長に合うようにアンテナの長さを調整して使用します。オールバンド(0.5MHz~1300MHz)で使用できます。

ラバーアンテナ

フレキシブル構造のアンテナです。300MHz以上の周波数を効率よく受信します。特に、900MHz帯(自動車・携帯電話やパーソナル無線など)の高周波を高感度受信します。

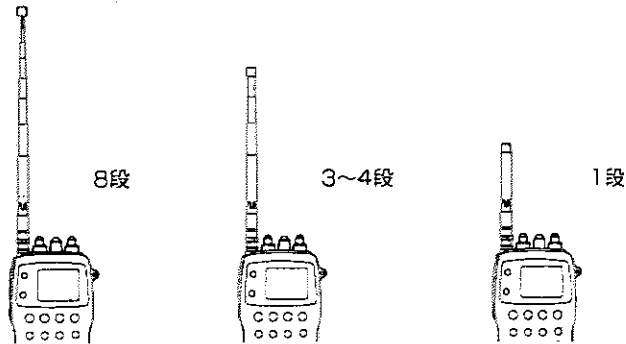
<ロッドアンテナの調整>

受信バンドの波長が合うように、ロッドアンテナの長さを調整します。LCDディスプレイの受信レベルメーターがよく振れるようにアンテナの長さを調整します。

アンテナの長さ調整の目安

受信バンド	100MHz以下	300MHz帯	900MHz帯
	AM・FMラジオ放送 テレビ音声(VHF) 短波放送・船舶無線など	コードレス電話 消防・救急無線など	自動車・携帯電話 パーソナル無線など

アンテナの長さ

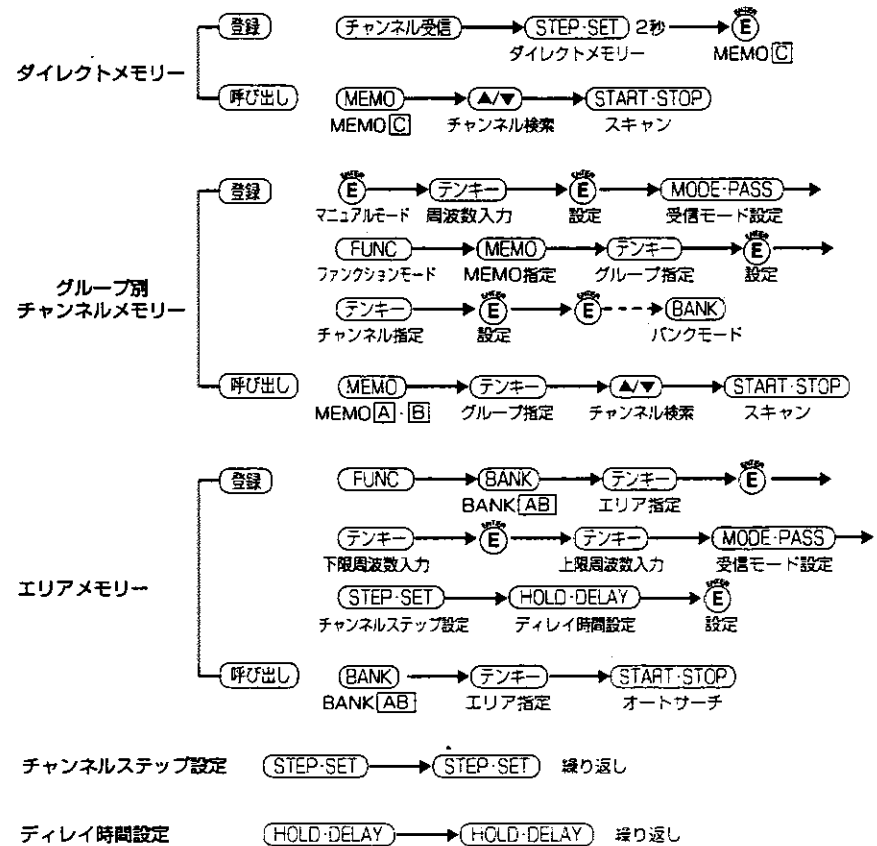


7. 操作方法 ステップ3

<メモリー登録をしましょう>

1. メモリーの構成と登録方法.....P34
2. ダイレクトメモリーの登録と受信方法.....P35
3. グループ別チャンネルメモリーの登録と受信方法.....P37
4. エリアメモリーの登録と受信方法.....P39
5. チャンネルステップの設定.....P41
6. デイレイ時間の設定.....P42
7. メモリーの消去.....P42

操作方法一覧



1. メモリの構成と登録方法

大容量のメモリーバンクを4ブロック(1バンク+3メモリー)に分けることにより使用頻度や目的に応じてメモリー登録できます。

メモリーの構成

メモリーバンク		
ブロック	メモリー数	メモリー登録
バンク AB	10エリア	エリア(受信周波数範囲)を登録
メモリー	A	200チャンネル(20チャンネル×10グループ) グループ別に登録
	B	200チャンネル(20チャンネル×10グループ) グループ別に登録
	C	600チャンネル ダイレクトメモリー

メモリー登録の方法

メモリーの登録はブロック別に下記の3つの方法があります。

- ① 受信中のチャンネルをそのままメモリー登録する → ダイレクトメモリー
メモリーバンクのMEMO [C] にメモリー登録します。
000CH~599CHまで600チャンネルメモリーできます。

MEMO [C]			
000CH	001CH	002CH	599CH
MHz	MHz	MHz	

- ② チャンネル(周波数)をグループ別にメモリー登録する
メモリーバンクのMEMO [A] 及びMEMO [B] にメモリー登録します。
MEMO [A]・[B]とも、それぞれ10グループに分かれています。
各グループは000CH~019CHまで20チャンネルメモリーできます。

MEMO [A] 及び MEMO [B]			
グループ	チャンネルNo		
	000CH	001CH	019CH
1	MHz	MHz	
2			
...			
9			
0			

- ③ 受信エリア(受信周波数範囲)でメモリー登録する → エリアメモリー
メモリーバンクのBANK [AB] にメモリー登録します。
エリアNo1~0まで10エリアメモリーできます。

BANK [AB]	
エリアNo	受信エリア
1	000000MHz~000000MHz
2	000000MHz~XXXXXXMHz
...	
0	

ちょっとひと言

- サブレシーバー側からメモリー登録する場合は、サブレシーバーの受信範囲内の周波数を指定してください。受信範囲外の周波数はメモリー登録できません。

2. ダイレクトメモリーの登録と受信方法

受信中のチャンネルをMEMO [C] にメモリー登録します。
メモリー登録した順番のチャンネルNoでメモリーします。
チャンネルNoは000CH~599CHまで600チャンネルあります。

① メモリーの登録方法

(例) 受信中のチャンネル(76.100MHz)をダイレクトメモリーする場合

- チャンネルを受信する
- (STEP-SET) キーを2秒間押し続ける
ダイレクトメモリーの登録モードとなり、LCDディスプレイにチャンネルNo "000CH" を点滅します。
- (E) キーを押す
LCDディスプレイに表示中のチャンネルを、点滅中のチャンネルNoでメモリー登録します。



ちょっとひと言

- ダイレクトメモリーしたチャンネルを書き換えることができます。
(STEP-SET) キーを押した後、書き換えるチャンネルNoを指定します。
チャンネルNoは、アップ/ダウン (▲/▼) ボタンにより検索します。
チャンネルNo指定後、(E) キーを押して表示中のチャンネルをメモリーします。

② 受信方法

ダイレクトメモリーしたチャンネルを呼び出して受信します。

(例) MEMO [C] の100CHにダイレクトメモリーしたチャンネルを受信する場合

- MEMO [C] を呼び出す
(MEMO) キーを押して、MEMO [C] を指定します。
- チャンネルNoを指定する。
アップ/ダウン (▲/▼) ボタンを押してチャンネルNoを検索します。
(例)の場合、100CHを呼び出します。
- 指定したチャンネルNoのチャンネルで受信状態になります。
- MEMO [C] にメモリー登録した全チャンネル(最大600チャンネル)をスキャンする場合は、(START-STOP) ボタンを押します。



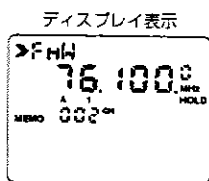
③メモリーの編集

ダイレクトメモリーしたチャンネルを、使用頻度や目的に応じてグループ別に分類してメモリー登録(MEMO[A]及びMEMO[B]に登録)しておけば、聴きたいチャンネルを簡単に呼び出すことができます。

編集方法

(例) MEMO[C]の[100CH]にダイレクトメモリーしたチャンネルをMEMO[A]のグループ①の[002CH]にメモリー編集する

- ① MEMO[C]を呼び出す
MEMO キーを押して、MEMO[C]を指定します。
- ② メモリー編集するチャンネルNoを指定する
アップ/ダウン(▲/▼)ボタンを押して、[100CH]を検索します。
チャンネルNoを呼び出した後、チャンネル(周波数)を確認します。
- ③ FUNC キーを押します。
- ④ MEMO[A]を呼び出す
MEMO キーを押して、MEMO[A]を指定します。
グループ別メモリーの登録モードになります。
- ⑤ グループNoを指定する
テンキーの①を押します。
- ⑥ E キーを押す
- ⑦ チャンネルNoを指定する
テンキーの②を押します。
- ⑧ E キーを押す
E キーを2回連続して押します。
- ⑨ E キーを押す
↓
MEMO[C]の[100CH]のチャンネルをMEMO[A]のグループ①の[002CH]にメモリー登録します。



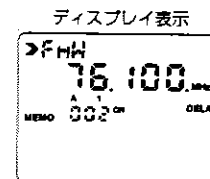
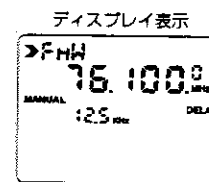
3. グループ別チャンネルメモリーの登録と受信方法

チャンネル(周波数)をMEMO[A]及びMEMO[B]にメモリー登録します。使用頻度や目的に応じて、グループ別に分類してメモリー登録しておけば、簡単に呼び出すことができます。MEMO[A]・[B]の二つのメモリーにそれぞれ10グループがあり、各グループへは000CH~019CHの20チャンネルが登録できます。任意のグループへチャンネルを登録する場合は最初に必ずチャンネル0(000CH)に登録してください。チャンネル0(000CH)に登録していない状態で他のチャンネルへ登録することはできません。また、登録していないチャンネルを呼び出すことはできません。

①メモリーの登録方法

(例) 受信モード: FMワイド、周波数76.100MHzのチャンネルをMEMO[A]のグループ①の[002CH]にメモリー登録する場合

- ① マニュアルモードにする
E キーを押します。LCDディスプレイに"MANUAL"を表示します。
- ② 周波数を入力する
テンキーにより⑦⑥①①①①の順に入力します。
- ③ E キーを押す
入力した周波数の確認をします。
- ④ 受信モードを指定する
MODE-PASS キーを押して、FMWを指定します。
アドバイス デレイ時間の指定ができます。
デレイ時間を指定する時はP42「デレイ時間の設定」をご覧ください。
- ⑤ FUNC キーを押す
LCDディスプレイに"F"を点滅します。
- ⑥ MEMO[A]を呼び出す
MEMO キーを押して、MEMO[A]を指定します。
- ⑦ グループNoを指定する
テンキーの①を押します。
- ⑧ E キーを押す
LCDディスプレイに"000CH"が点滅します。
- ⑨ チャンネルNoを指定する
テンキーの②を押します。
- ⑩ E キーを押す
LCDディスプレイに"MHz"が点滅します。



11 **E** キーを押す
MEMO[A]のグループ1の002CHにメモリー登録します。

12 **BANK** キーを押す
マニュアルモードを解除して、バンクモードに切り替わります。
LCDディスプレイに“BANK”を表示します。

※周波数の入力後に **E** キーを押すと、入力したチャンネルの小数点以下の桁がチャンネルステップと一致するように自動補正されます。受信周波数に合うように、周波数を入力する前にチャンネルステップを切換えてください。

ちょっとひと言

- アッテネーター(ATT)を指定する場合は、**FUNC** キーを押す前にアッテネーターを指定します。
アッテネーターの指定方法はP50「アッテネーターON/OFF」をご覧ください。

② 受信方法

MEMO[A]及びMEMO[B]にメモリー登録したチャンネルのグループを呼び出して、スキャンする

(例) MEMO[A]のグループ1の002CHにメモリー登録したチャンネルを受信する

- 1 MEMO[A]を呼び出す
MEMO キーを押して、MEMO[A]を指定します。
- 2 グループNoを指定する。
テンキーの①を押して、グループ1を指定します。
- 3 アップ/ダウン(**▲/▼**)ボタンを押す
グループ内のチャンネルを1チャンネルずつ検索して、002CHを呼び出します。
- 4 グループ内の全てのチャンネルをスキャンする場合は、**START-STOP** ボタンを押します。



4. エリアメモリーの登録と受信方法

受信したいエリア(受信周波数範囲)を、BANK[AB]にメモリー登録します。
エリアNo1~0まで10エリアメモリーできます。

① メモリーの登録方法

(例) 受信周波数108.00~170.00MHzの範囲を受信モードAM・チャンネルステップ50KHz・ディレイ時間5秒でBANK[AB]のエリア1にメモリー登録する場合

- 1 **FUNC** キーを押す
LCDディスプレイに“F”を点滅します。
- 2 **BANK** キーを押す
エリアメモリーの登録モードとなり、BANK[AB]が呼び出されます。
- 3 エリアNoを指定する
テンキーの①を押します。
- 4 **E** キーを押す
LCDディスプレイに“MHz”が点滅します。
- 5 受信エリアの下側(下限)を入力します。
テンキーにより①④⑧①①の順に入力します。
入力ミスした場合は、**○** キーを2回押してから、再度入力します。
- 6 **E** キーを押す
入力したチャンネルを確認します。
- 7 受信エリアの上側(上限)を入力します。
テンキーにより①⑦⑩①①の順に入力します。
入力ミスした場合は、**○** キーを2回押してから、再度入力します。
- * 8 受信モードを指定する
MODE-PASS キーを押して、[AM]に切替えます。
- * 9 チャンネルステップを指定する
STEP-SET キーを押して、[50KHz]に切替えます。
- 10 ディレイ時間を指定する
HOLD-DELAY キーを押して、[5 SEC]に切替えます。
- 11 **E** キーを押す
BANK[AB]のエリア1にメモリー登録します。



ちょっとひと言

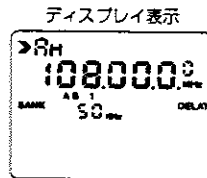
- 受信モード及びチャンネルステップを必ず指定してください。
エリアメモリーする周波数範囲の受信モードやチャンネルステップがわからない場合は、P19「メモリーバンクの受信エリア」をご覧ください。
- 受信モード・チャンネルステップ・ディレイ時間の指定の操作方法は
受信モード : P25「受信モードの設定」をご覧ください。
チャンネルステップ : P41「チャンネルステップの設定」をご覧ください。
ディレイ時間 : P42「ディレイ時間の設定」をご覧ください。

② 受信方法

BANK [AB] にメモリー登録したエリアを呼び出して受信します。

(例) BANK [AB] のエリア [1] にメモリー登録したエリアを呼び出してサーチする

- 1 BANK [AB] を呼び出す
[BANK] キーを押して、BANK [AB] を指定します。
- 2 エリアNoを指定する
テンキーの [1] を押します。
- 3 [START/STOP] ボタンを押す
オートサーチを開始します。



5. チャンネルステップの設定

受信エリアの全帯域で、チャンネルステップを切り換えることができます。
また、切替えたチャンネルステップでオートサーチ及びマニュアルサーチができます。

切換え可能なチャンネルステップ

メインレシーバー : 1・5・6.25・9・10・12.5・20・25・50・100 KHz
サブレシーバー : 5・6.25・10・12.5・25 KHz

操作方法

[STEP/SET] キーを押して、チャンネルステップを切換えます。

(例) BANK [A] のエリア [1] のチャンネルステップを [50KHz] に切換えてオートサーチする

- 1 BANK [A] のエリア [1] を指定する
[BANK] キーを押して、BANK [A] を指定します。
テンキーの [1] を押して、エリア [1] を指定します。
BANK [A] のエリア [1] の場合、初期設定のチャンネルステップ「12.5KHz」を表示します。



- 2 チャンネルステップを切換える
[STEP/SET] キーを押して、[50KHz] に切換えます。
メインレシーバー側の場合は、[1KHz] → [5KHz] → [6.25KHz] → [9KHz] → [10KHz] → [12.5KHz] → [20KHz] → [25KHz] → [50KHz] → [100KHz] の順に切換わります。
サブレシーバー側の場合は、[5KHz] → [6.25KHz] → [10KHz] → [12.5KHz] → [25KHz] の順に切換わります。



- 3 オートサーチする
[START/STOP] ボタンを押します。
BANK [A] のエリア [1] の受信エリアを、チャンネルステップ50KHzでオートサーチします。

ちょっとひと言

- チャンネルステップが受信バンドのステップ(初期設定のステップ)と合っていない場合は、チャンネルを受信できなくなることがあります。初期設定のステップと合うようにチャンネルステップを切換えてください。例えば、チャンネルステップの初期設定が12.5KHzの場合、6.25KHz(1/2倍)・25KHz(2倍)・50KHz(4倍)・100KHz(8倍)のいづれかに切換えます。
アドバイス 受信バンドとチャンネルステップの関係は、P19「メモリーバンクの受信エリア」をご覧ください。
- チャンネルステップを小さく(狭く)設定した場合は、エリア内を細かく受信することができます。また、大きく(広く)設定した場合は、エリア内を素早くサーチすることができます。

6. デレイ時間の設定

受信エリアの全帯域で、デレイ時間(受信待ち時間)を切換えて、オートサーチまたはオートスキャンすることができます。

——— 切換え可能なデレイ時間 ———

メインレシーバー・サブレシーバー共に：2秒・5秒・10秒・ホールドの4段階

操作方法

(HOLD-DELAY) キーを押して、デレイ時間を切換えます。

(例) BANK[A]のエリア①のデレイ時間を10秒に切換えてオートサーチする

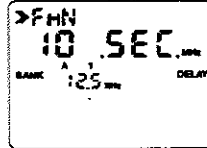
① BANK[A]のエリア①を指定する

(BANK) キーを押して、BANK[A]を指定します。
 テンキーの①を押して、エリア①を指定します。
 BANK[A]のエリア①の場合、デレイ時間は2秒が初期設定されています。
 LCDディスプレイに“DELAY”を表示します。

② デレイ時間を切換える

(HOLD-DELAY) キーを押して、**[10 SEC]**に切換えます。
 キーを押す度に、**[2SEC]→[5SEC]→[10 SEC]→[HOLD]**の順に切り替わります。

ディスプレイ表示



③ オートサーチする

BANK[A]のエリア①の受信エリアを、デレイ時間10秒でオートサーチします。

——— ちょっとひと言 ———

- デレイ時間をホールド(LCDディスプレイに“HOLD”を表示)に設定した場合、一度チャンネルを受信すると、そのチャンネルで受信待ちの状態になり、オートサーチをしなくなります。受信バンドに合ったデレイ時間を設定してください。

アドバイス 受信バンドとデレイ時間の関係は、P19「メモリーバンクの受信エリア」をご覧ください。

7. メモリーの消去

メモリーバンクにメモリー登録したチャンネルを取り消すことができます。

① ダイレクトメモリーの消去

MEMO[C]にメモリー登録したチャンネルを消去します。

操作方法

(例) MEMO[C]の[100CH]にメモリー登録したチャンネルを消去する場合

① **(FUNC)** キーを押す

LCDディスプレイに“F”を点滅します。

②

(STEP-SET) キーを押す

ダイレクトメモリーの消去モードとなり、ダイレクトメモリーした最後のチャンネルNoと周波数を表示します。

③

消去するチャンネルを指定する

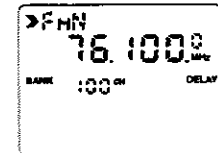
テンキーにより①①①を入力します。または、アップ/ダウン(▲/▼)ボタンにより検索します。

④

(E) キーを押す

指定したチャンネルを消去します。

ディスプレイ表示



解除方法

ダイレクトメモリーの消去モードを解除する時は**(START-STOP)** ボタンを押すか、テンキー以外の機能キーを押します。

② グループ別チャンネルメモリーの消去

登録したチャンネルを取り消す場合は、周波数0MHzで当該チャンネルにメモリー登録をしてください。指定したチャンネルNOに対応したチャンネルが消去されます。

③ メモリーオールクリア

メモリーバンク・バスメモリー・プライオリティメモリーにメモリー登録された内容を全て消去し、初期の状態に戻ります。
 (メモリーバンクに初期登録している受信エリアは消去されません)

操作方法

① 電源をOFFにする

(POWER) スイッチを1秒間押し続けます。

② テンキーの①と **(E)** キーを押し続ける。

+

③ 電源をONにします。

(POWER) スイッチを押します。

①キーと **(E)** キーを
 押したまま、電源ON

↓
 オールクリアモードとなり、キー操作は何もできません。

メモリーの消去に約10秒かかります。

④ メモリー消去が終了すると、電源が切れます。

8. プログラム受信

メモリーバンクにメモリー登録した複数のエリアまたはグループを順番にサーチ/スキャンすることができます。

1. プログラムサーチ

メモリーバンクの同じバンク内の複数のエリアをプログラムサーチする。プログラムサーチは、メインレシーバー側で最大10エリアまで指定できます。

操作方法

(例) BANK[A]のエリア②・④・⑥を順番にオートサーチする場合

- ① BANK[A]を呼び出す
[BANK]キーを押して、BANK[A]を指定します。
- ② 最初のエリアNoを指定する
テンキーの②を押します。
- ③ [PRO・PRI]キーを押す
プログラム受信モードとなり、最初に指定したエリアNoが点滅します。
- ④ プログラム受信するエリアNoを指定する
テンキーの④と⑥を押します。
注意 同じエリアは、2回以上指定できません。
同じエリアを2回指定した場合は、そのエリアは取り消されます。
- ⑤ オートサーチする
[START・STOP]ボタンを押します。
BANK[A]のエリアNo②→④→⑥の順にオートサーチします。
サーチ中の受信エリアNoが点滅します。



解除方法 プログラムサーチを解除する時は、[PRO・PRI]キーを押します。

ちょっとひと言

- サプレシーバー側でオートサーチする時は、サプレシーバー側が受信可能なエリアをプログラムサーチします。

2. プログラムスキャン

メモリーバンク内の同じメモリー内の複数のグループをプログラムスキャンする。プログラムスキャンは、最大10グループまで指定できます。

操作方法

(例) MEMO[A]のグループ②・④・⑥を順番にスキャンする場合

- ① MEMO[A]を呼び出す
[MEMO]キーを押して、MEMO[A]を指定します。
- ② 最初のグループNoを指定する
テンキーの②を押します。
- ③ [PRO・PRI]キーを押す
プログラム受信モードとなり、最初に指定したブロックNoが点滅します。
- ④ プログラム受信するブロックNoを指定する
テンキーの④と⑥を押します。
注意 同じブロックは、2回以上指定できません。
同じブロックを2回指定した場合は、そのブロックは取り消されます。
- ⑤ オートスキャンする
[START・STOP]ボタンを押します。
MEMO[A]のグループNo②→④→⑥の順にオートスキャンします。
スキャン中のグループのグループNoが点滅します。

解除方法 プログラムスキャンを解除する時は、[PRO・PRI]キーを押します。

ちょっとひと言

- サプレシーバー側でオートスキャンする場合、サプレシーバーの受信範囲以外のチャンネル(周波数)は、オートスキャンをパスします。
- サーチとスキャン
自動選局の種類のサーチとスキャンがあります。
サーチは受信エリア(受信周波数範囲)内のチャンネルを、チャンネルステップにより1ステップずつ検索します。一方、スキャンはメモリーバンクのメモリー(MEMO)に登録したチャンネル(周波数)を検索します。

9. プライオリティ受信



他のチャンネルを受信中でも、プライオリティ・チャンネルの検索をおこない、信号があれば優先受信します。

プライオリティ・チャンネルは[000CH]～[009CH]まで10チャンネルあります。また、[000CH]に、350.1MHz(速度取締り連絡波)が初期登録されています。

1. プライオリティ・チャンネルのメモリー登録

登録方法

(例) 受信モードがAM・受信周波数が118.000MHzのチャンネルを、プライオリティ・チャンネルとして、チャンネルNo[005CH]にメモリー登録する場合

- 1 FUNC キーを押す
LCDディスプレイに「F」が点滅します。
- 2 PRO・PRI キーを押す
プライオリティ・チャンネルの登録モードになり、LCDディスプレイが「P」及び「000CH」を点滅します。
- 3 チャンネルNoを指定する
テンキーの⑤を押します。
ディスプレイ表示

- 4 E キーを押す
LCDディスプレイが「MHz」を点滅します。
- 5 受信モードを指定する
MODE・PASS キーを押して、AMモードを指定します。
アドバイス デイレイ時間の指定もできます。
デイレイ時間を指定する場合は、STEP・SET キーを押して切り換えます。
ディスプレイ表示

- 6 プライオリティ・チャンネル(周波数)を入力する
テンキーにより、①①⑧①①①①の順に入力します。入力ミスした場合は、E キーを2回押してから、再度入力します。
- 7 E キーを押す
プライオリティ・メモリーにメモリー登録し、入力したチャンネルでプライオリティ受信を開始します。

ちょっとひと言

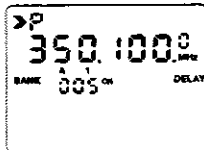

- プライオリティ・メモリーのチャンネルNo[000CH]は、メモリー登録できません。
- メモリー登録時に、チャンネルNoを指定しない場合は、メモリー登録した順番のチャンネルNo(LCDディスプレイに表示しているチャンネルNo)でメモリー登録されます。

2. プライオリティチャンネルの受信

プライオリティ・メモリーにメモリー登録したチャンネルを呼び出して、プライオリティ受信する。プライオリティ受信は、メインレシーバー側のみおこなえます。

操作方法

(例) プライオリティ・メモリーに登録したチャンネルNo[005CH]のプライオリティ・チャンネルを受信する。

- 1 (PRO・PRI) キーを2秒間押し続ける
プライオリティ受信モードになります。
LCDディスプレイに「P」を点滅し、350.100MHzを表示します。
ディスプレイ表示

- 2 チャンネルNoを指定する
テンキーの⑤を押します。
または、アップ/ダウン(▲/▼)ボタンにより、チャンネルを検索します。
- 3 E キーを押す
プライオリティ・チャンネルの検索を開始します。
プライオリティ・チャンネルの信号検索を3秒間隔でおこないます。
- 4 プライオリティ・チャンネルを受信する
プライオリティ・チャンネルに信号(電波)があれば、そのまま受信します。
LCDディスプレイのチャンネル表示部に「P」を表示します。
ディスプレイ表示


解除方法 プライオリティ受信を解除する場合は、(PRO・PRI) キーを2秒間押し続けます。

ちょっとひと言

- チャンネルを受信中にプライオリティ・チャンネルの信号検出をおこなっている場合は、受信中の音声(音)が3秒間隔(プライオリティ・チャンネルの信号検出時)で途切れます。

10. 盗聴電波の受信

無線式盗聴器の発信周波数は、特定の周波数帯が使用されています。

無線式盗聴器の発信周波数

- ① FM放送帯 : 76~90MHz
- ② VHF帯 : 140MHz帯
- ③ UHF帯 : 400MHz帯

本機は、無線式盗聴器によく使用されているVHF/UHF帯の43チャンネルを*メモリー登録しています。

*メモリーバンク : BANK [B] のエリア [A] にメモリー登録しています。

1. 盗聴電波の受信方法

BANK [B] のエリア No [A] を呼び出してオートサーチまたはマニュアルサーチします。受信方法は、P11「受信エリアをオートサーチする」をご覧ください。

2. 盗聴器の場所の特定

盗聴電波を受信することにより、盗聴器の場所の特定をすることができます。

場所の特定方法

- ① 盗聴電波の強い方向を調べます
LCDディスプレイのレベルメーターがよく振れる方向に進みます。
- ② レベルメーターの振れが最大になったら、アンテナを外し、さらに電波の強い方向に進みます。
- ③ 電波の発信源(盗聴器)に接近すると、ハウリングが起こります。
数mの位置に近づくと「ワーン」と大きなハウリング音がします。
- ④ ハウリングが起きた場所をよく調べてください。

ちょっとひと言

- 本機は、VHF/UHF帯の無線を使用した盗聴器の発信電波を受信するものです。
- 盗聴器はその性質上、発見が難しい場所やこんなものかと思うものにセットされています。発見が難しい場合や危険を伴う恐れがある場合は、専門の調査機関に依頼してください。

11. ファンクションモードでの機能

ファンクションキーと各機能キーとの組み合わせにより、いろいろ便利な機能があります。

1. 操作方法

[FUNC] キーを押した後、5秒以内に各機能キーを押します。

① [FUNC] キーを押す
↓
LCDディスプレイに「F」が点滅します。 5秒以内

② 各機能キーを押す
ファンクションモードでの機能となり、各機能キーにより、それぞれ違う機能となります。

	機能キー	ファンクションモードでの機能
	[LIGHT-KEY]	30秒 バックライト
	[MAIN]	レシーバー ON/OFF
	[PRO-PRI]	プライオリティ・チャンネルのメモリー登録 →P46をご覧ください
	[MODE-PASS]	バスメモリーの消去 →P27をご覧ください
	[STEP-SET]	ダイレクトメモリーの消去 →P43をご覧ください
	[BANK]	エリアメモリーの登録 →P39をご覧ください
[FUNC] →	[MEMO]	チャンネルメモリーの登録 →P37をご覧ください
	①	パーソナル無線のデータ表示時間設定 →P31をご覧ください
	②	秘話解除(音声反転) →P28をご覧ください
	③	リバースモード →P29をご覧ください
	④	アッチネータ ON/OFF
	⑤	6秒 オートサーチ
	⑥	キートーン ON/OFF
	⑦	チャンネルモニター →P23をご覧ください
	⑧	ミュート機能

ちょっとひと言

[FUNC] キーを押した後、5秒以内に「機能キー」を押さない場合は、ファンクションモードが自動的に解除されます。

2. 機能説明

- ① **FUNC** → **LIGHT-KEY** <30秒バックライト>
LCDディスプレイ及びキーボードのバックライト照明を30秒間おこないます。
- ② **FUNC** → **MAIN** <レシーバーON/OFF>
メインレシーバーまたはサブレシーバーの電源をON/OFFします。
FUNC → **MAIN** 操作で、"▶"マークの無い方(操作しない方)のレシーバーの電源がOFFとなり、LCDディスプレイの表示が消えます。
解除方法 同じ操作(**FUNC** → **MAIN**)で、電源がONとなります。
- ③ **FUNC** → **④** <アッテネーター ON/OFF>
受信アッテネーター(感度)をON/OFFします。
FUNC → **④** 操作で、アッテネーターがONとなり、受信感度が約15dB減衰します。アッテネーターがONの時は、LCDディスプレイに"ATT"を表示します。
受信レベルメーターが全灯するような強い電波を受信した時や他のチャンネルとの混信がひどい時に、アッテネーターをONとします。
解除方法 同じ操作(**FUNC** → **④**)で、OFFになります。
- ④ **FUNC** → **⑤** <6秒オートサーチ>
オートサーチの種類が変わります。
6秒オートサーチにすると、オートサーチ中にチャンネルを受信した場合、6秒間チャンネルを受信した後、再びオートサーチを始めます。
6秒オートサーチ中は、LCDディスプレイの"DELAY"表示が点滅します。
解除方法 同じ操作(**FUNC** → **⑤**)で、6秒オートサーチを解除します。
- ⑤ **FUNC** → **⑥** <キートン ON/OFF>
全てのキートン(ピッ音またはビッ音)を消します。
解除方法 同じ操作(**FUNC** → **⑥**)で、キートンが出ます。
- ⑥ **FUNC** → **⑧** <ミュート機能>
2バンド受信中、メインレシーバー側とサブレシーバー側がそれぞれチャンネルを同時受信して、音声が聴き取りづらい場合は、片方のレシーバーの音声を消すことができます。
FUNC → **⑧** : メインレシーバー側の音声を消します。
FUNC → **⑧** → **⑧** : サブレシーバー側の音声を消します。
その後は **⑧** キーを押す度に交互に音声を消します。
ミュート機能中は、音声が消えているレシーバー側の"BUSY"表示が点滅します。
解除方法 同じ操作(**FUNC** → **⑧**)で、ミュート機能を解除します。
また、ミュート中に受信チャンネルが変わった場合も、ミュート機能が解除します。

12. 故障とお考えになる前に

ご使用中に異常を感じた時は、故障と思われる前に下記の点をお確かめください。

症状	原因
電源が入らない (ディスプレイが表示しない)	① 電池が消耗している →電池を交換してください ② 電源プラグが奥まで入っていない ③ 外部電源がきていない
音がでない	① 音量レベルが低い ② イヤホンを接続している
受信できない	① スケルチボリュームが右(時計方向)に回り過ぎている →左(反時計方向)に回してください ② 受信可能な距離に入っていない 受信距離は天候や障害物によりかなり変化します
音声が途切れる	① スケルチボリュームが右に回り過ぎている →左に回してください ② 電波が弱い ③ アッテネーターがONになっている →アッテネーターをOFFにしてください ④ プライオリティ受信をしている →プライオリティ受信を解除してください
音がおかしい	① 受信モードが合っていない →受信モードを変えてください ② 秘話解読モードになっている →秘話解読を解除してください
変な信号音を受信する	① 制御チャンネルやデジタル通信を受信している →音声での受信はできません ② 内部干渉による影響
操作キーを押しても動作しない	① キーロック(○)状態になっている →キーロックを解除してください ② 操作指定("▶"マーク)を間違えている → MAIN キーにより、レシーバー指定する ③ マイコンが暴走(異常動作)している →外部電源および乾電池を外したのち、再度セットし電源を投入する(マイコンをリセットする)
サーチ・スキャンをしない	① スケルチボリュームが左(反時計方向)に回り過ぎている →右(時計方向)に回してください

13. 主な仕様

— メインレシーバー —

- 受信周波数 0.5~1300 MHz
- 受信電波型式 FMナロー/FMワイド/AM/SSB
- チャンネルステップ 1/5/6.25/9/10/12.5/20/25/50/100 kHz

— サブレシーバー —

- 受信周波数 117~170 MHz、339~443 MHz
- 受信電波型式 FMナロー/AM
- チャンネルステップ 5/6.25/10/12.5/25 kHz

— 共通 —

- メモリー数 エリアメモリー 10エリア
チャンネルメモリー 1000チャンネル
プライオリティ・メモリー 9チャンネル
バスメモリー 200チャンネル
- 受信感度 FMナロー 0.5 μ V 12dB SINAD
FMワイド 1.0 μ V S/N 20dB
AM 1.0 μ V S/N 10dB
SSB 1.5 μ V S/N 10dB
- アンテナインピーダンス 50 Ω
- 電源電圧 DC 6V 単3乾電池 4本
DC 12V 外部電源
- 消費電流 150mA 無信号時
- 動作温度範囲 -10 $^{\circ}$ C~+60 $^{\circ}$ C
- サイズ 68(W) \times 39(D) \times 150(H)mm (突起部含まず)
- 本体重量 250g

保証規定

1. 保証期間内(お買上げ日より1年間)に、正常なる使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
2. 保証期間中に修理を依頼される場合は、製品に保証書を添えて、お買上げの販売店に修理を依頼してください。
3. つぎのような場合には、保証期間内でも有料修理になります。
(イ)使用上の誤り、製品に改造を加えた場合や当社指定のサービス店以外で修理された場合
(ロ)お買上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
(ハ)火災、地震、水害、公害、異常電圧、指定外の使用電源(電圧・周波数)及びその他天災地変などによる故障及び損傷
(ニ)保証書のご提示がない場合
(ホ)保証書の指定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合
4. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。

修理メモ